

美深町議会議長 南 和 博 様

総務住民常任委員会委員長 藤原 芳幸

所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、下記の事項について閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により報告する。

記

- 調 査 事 項** 美深町の衛生事業の現状と今後の課題
調 査 日 令和元年8月6日
調 査 内 容 1 現地調査 ①有害鳥獣冷凍保管施設運用状況
②リサイクルセンター稼働状況
2 聞取調査 ①資源ごみ・有害鳥獣対策の現状と課題
②一般ごみ・炭化ごみ・し尿、汚泥の現状及び広域事業を含め
今後の課題

図1 5年間のごみの受け入れ実績

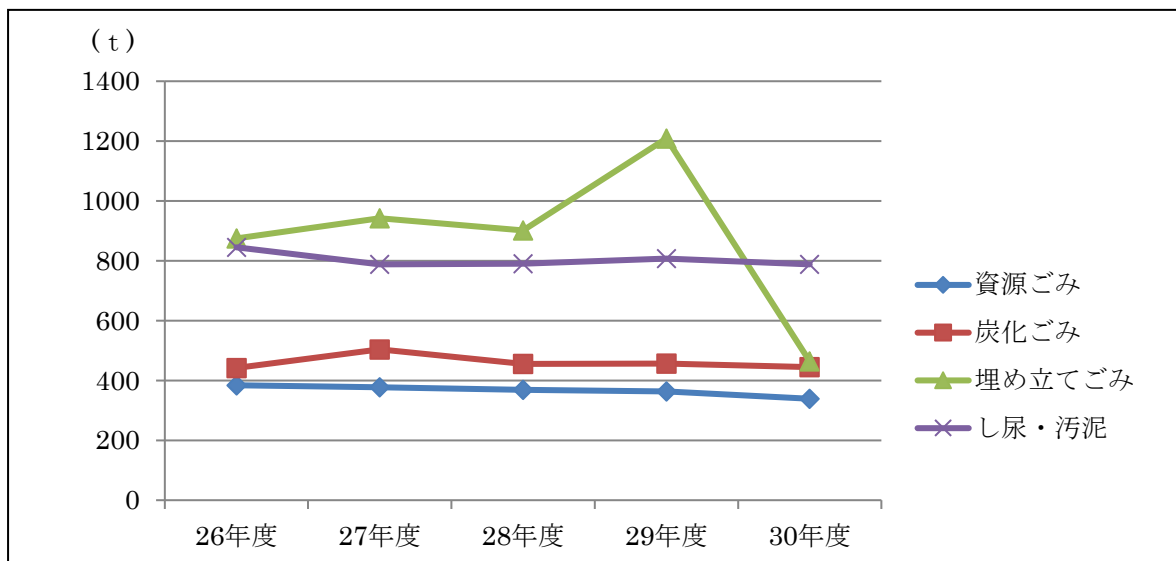


図2 冷凍庫設置後のシカの搬入・搬出頭数

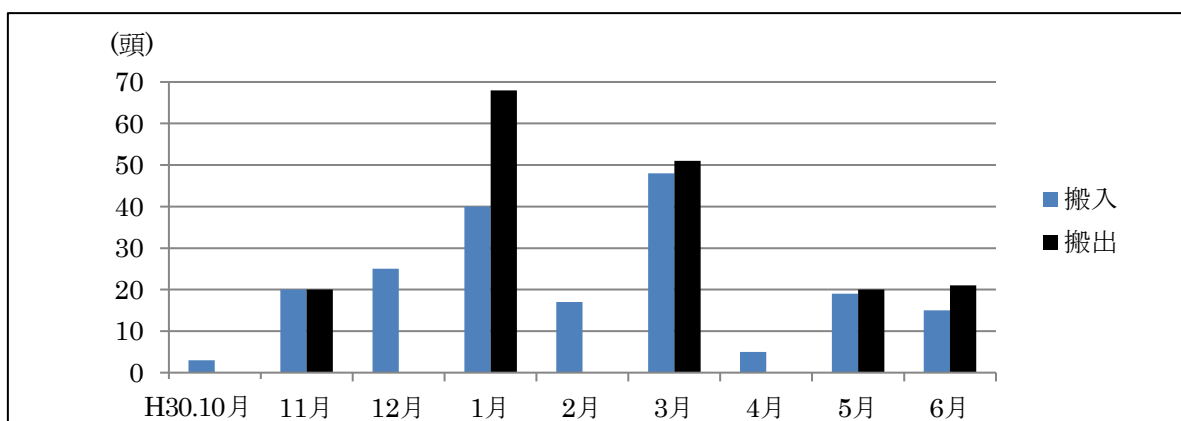


図3 5年間で捕獲された有害鳥獣

種 別	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
シカ (頭)	252	132	206	214	167
クマ (頭)	8	0	5	6	2
カラス (羽)	27	8	20	8	11
ハト (羽)	5	1	5	4	10
キツネ (匹)	12	3	11	4	5
アライグマ (頭)	11	33	39	69	56

調査のまとめ

衛生事業については、住民の日々の暮らしに欠かせない身近なものであり、自然環境の保全や循環型社会を形成するうえで重要な事業であり、社会全体として取り組んでいく必要がある。

昨年4月から、美深町でのごみ埋立ては広域処分場での埋立に移行し、炭化ごみ・し尿・汚泥(浄化槽)と共に名寄地区衛生施設事務組合(名寄市・美深町・下川町・音威子府村で構成)にて処理されることとなった。

埋立てごみについては、施設閉鎖を控えた平成29年度が28年度比で30%以上増加したことにより、平成30年度は28年度比で約50%まで減少している。

資源ごみに関しては過去5年間の受入実績に大きな変化はなく、処理も従来通り町内で処理されており、ごみ処理は適正に行われていると判断できる。

ただし、同組合では、し尿・汚泥処理を行う衛生センターは40年経過による老朽化が著しく、炭化センターは15年経過だが全国に同様施設が殆どないため、部品供給やメンテナンスサービス縮小に伴う維持管理に課題があることなどから、一般廃棄物処理施設の将来を見据えた整備計画の基本方針がこの程示された。

平成30年度開設のごみ埋立広域処分場の将来展望と併せ、広域ごみ処理施設計画の議論が始まっており、美深町においても新たに議論が必要である。

町の総合計画においては、自然環境と調和する視点による循環型社会の形成を目指し、ごみの減量化も目標の一つであり、単独や広域処理方法に関わらず、原点である「ごみ」そのものを減らす努力・工夫が求められており、ごみ減量化の先進自治体等の研究を怠らず、住民に的確でわかりやすい情報を周知していく努力が必要である。

平成30年度から運用が始まった有害鳥獣の一時保管施設については、これまでの捕獲実績により算出した内容に近い状況ではあるが、夏期の捕獲数が予想より多かったため、冷凍庫の使用電力が想定を上回る結果となっている。

また、有害鳥獣については、農村部の農作物被害だけではなく、市街地のカラスによる生活環境悪化も見受けられ、住民の快適な暮らしを守るために、鳥獣保護の決まりを遵守しつつ、必要な防除対策と適正な捕獲に努めることが求められる。